

第3回音声ドキュメント処理ワークショップ開催報告

秋葉友良 (メディア科学リサーチセンター, セマンティックアーカイブコア)

音声ドキュメント処理ワークショップは、講義・講演・放送番組・ネット上のマルチメディアコンテンツなどの音声を含む様々なデータを、言語の知識・記録形態としての「文書」として扱う音声ドキュメント処理に関する研究・技術の発展を促進することを目的に、メディア科学リサーチセンター主催、情報処理学会音声言語情報処理研究会 (SIG-SLP) 共催のもと、平成 19 年より毎年 2 月に開催してきた。第 3 回目となる本年度のワークショップは、平成 21 年 2 月 27 日から 28 日の 2 日間にわたり本学情報メディア基盤センターマルチメディア教室にて開催した。

ワークショップでは、毎年関連分野から 2 名の講師をお招きして特別講演をお願いしている。今回は、マイクロソフトの大附克年氏に「マイクロソフトの音声言語処理技術」について、国立情報学研究所の神門典子教授に「NTCIR のタスクの変遷と技術の進展」と題して情報検索における評価型ワークショップである NTCIR についてご講演いただいた。一般発表セッションでは、音声ドキュメントの検索、情報記録、情報抽出、整形、認識のための言語モデル・音響モデル、音声コーパスの分析、といった多様なテーマで 20 件の発表が集まった。ワークショップには 2 日間で 63 人 (うち本学以外 34 人) の参加者があった。

本ワークショップでは、第 1,2 回ワークショップと同様、情報処理学会音声言語情報処理研究会のもとで活動を行なっている音声ドキュメント処理ワーキンググループの活動の一環として、講演データの研究利用のため、ワークショップで発表した講演に対する講演の収録を行なった。3 年間で約 1800 分の講演が収録された。現在、収録したデータについて発話書き起しなどのメタデータ付与を行っており、今後、研究利用として公開する予定である。